奈良工業高等専門学校	グローバル工学協働教育プログラム(GECEP)（ベーシックコース）	開講年度	平成30年度 (2018年度)

学科到達目標

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0006	履修単位	1	1	1																			金澤 直志,板倉 和裕	
一般	選択	異文化交流Ⅰ	0007	履修単位	1	集中講義																				板倉 和裕	
一般	選択	海外協働研修Ⅰ	0008	履修単位	1	集中講義																				鍵本 有理	
一般	選択	グローバルチャレンジ	0009	履修単位	1	集中講義																				板倉 和裕	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0008	履修単位	1					1	1																
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0009	履修単位	1					1	1																
一般	選択	異文化交流Ⅱ	0010	履修単位	1					集中講義																	
一般	選択	海外協働研修Ⅱ	0011	履修単位	1					集中講義																	
一般	選択	グローバルチャレンジ	0012	履修単位	1					集中講義																	
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0008	履修単位	1									1	1												
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0009	履修単位	1									1	1												
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0010	履修単位	1									2													
一般	選択	異文化交流Ⅲ	0011	履修単位	1									集中講義													
一般	選択	海外協働研修Ⅲ	0012	履修単位	1									集中講義													
一般	選択	グローバルチャレンジ	0013	履修単位	1									集中講義													
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0014	履修単位	1									2													
一般	選択	英語アクティブラーニングⅠ	0007	履修単位	1													1	1								
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0008	履修単位	1													1	1								
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0009	履修単位	1													2									
一般	選択	異文化交流Ⅳ	0010	履修単位	1													集中講義									
一般	選択	海外協働研修Ⅳ	0011	履修単位	1													集中講義									
一般	選択	グローバルチャレンジ	0012	履修単位	1													集中講義									
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0013	履修単位	1													2									
一般	選択	英語アクティブラーニングⅡ	0001	履修単位	1																	1	1				
一般	選択	グローバルコミュニケーション	0002	履修単位	1																	2					
一般	選択	異文化交流Ⅴ	0003	履修単位	1																	集中講義					
一般	選択	海外協働研修Ⅴ	0004	履修単位	1																	集中講義					
一般	選択	グローバルチャレンジ	0005	履修単位	1																	集中講義					
一般	選択	グローバルエンジニアスキル	0006	履修単位	1																	2					

奈良工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語アクティブラーニングⅠ

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	ALC NetAcademy Next		
担当教員	金澤 直志,板倉 和裕		

到達目標

オンライン学習ソフトを利用し、自学自習を行い、指定のコースを修了する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		指定のコースを修了できなかった。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	技能審査の成果の単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5 年3 月の学校教育法施行規則の改正により、制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。学校外での学修を30 単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。
注意点	関連科目 　英語I 学習指針 　英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英語文法力や英単語力を補強していく。 自己学習 　学ぶ習慣を身につけてほしい。英語を利用しなければ、忘れることの方が多い。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。

学修単位の履修上の注意

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	単位認定に関して 申請方法： 例年１月末に申込期間を設定している。学生には掲示板にて公示されるので、１月に入って掲示板を確認すること。 コース修了を証明する書類を申請用紙に添えて学生課グローバル事務局に提出すること。	英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC で400 点以上を取得すること。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合		
	TOEIC	合計
総合評価割合	100	100
基礎的能力	100	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	異文化交流Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム(GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	なし		
担当教員	板倉 和裕		

到達目標

１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。
２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。	異文化理解に対して高い意識をもっている。	異文化理解に対する意識が不十分である。
グローバル・コミュニケーション力	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	異文化理解に関する３つの構成要素（①態度、②知識、③技能）を理解した上で、海外学生との交流プログラムに参加し、日本文化、学校等の紹介並びに海外学生とのコミュニケーションを通してグルーバル感覚を身につける。
授業の進め方・方法	講義により、「異文化理解」における３つの構成要素（①態度・②知識・③技能）を理解した上で、実際に海外学生との交流プログラムにおける学校及び日本文化の紹介に関するプレゼンテーションの準備を行う。また、実際の国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して得られた知見をポスターにまとめる。
注意点	異文化理解に対する積極的な取り組みが必要である。

学修単位の履修上の注意

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	１．講義 異文化理解に関する知識伝達型の講義と演習に出席する。 ２．シンガポール人学生の受入準備のための活動 学校・文化紹介用のPPT作成、キャンパスツアーの企画、交流の企画など、シンガポール学生の受入準備活動を行う。 ３．シンガポール人学生受入活動への参加 ４．報告会開催に向けた準備活動 全体での振り返りおよび役割別振り返りを行うほか、報告会の開催に向けてPPT、掲示用ポスター、広報用動画の作成などを行う。 ５．国際交流プログラム参加報告会の実施	１．文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。また、本校が提供する国際交流プログラムに積極的に参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 ２．本校が提供する国際交流プログラムに参加し、積極的に海外学生との交流を図ることができる。異なる文化を持つ学生との交流を通して、異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え行動に移すことができる。主に英語を用いて交流プログラムの報告会でプレゼンテーションをすることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	プレゼンテーション	授業参加・態度	提出物の完成度	合計
総合評価割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	海外協働研修Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	0008	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム(GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	なし/本校で実施している，国際交流等の報告会発表が参考となる。		
担当教員	鍵本 有理		

到達目標

・異文化に対する理解を深めるとともに，他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め，自国の文化についても紹介ができる。
・英語をはじめとする，母語以外の外国語を使って，一定のコミュニケーションを図ることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。	異文化に対する理解がある。自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。	異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、一定のコミュニケーションを図ることができる。	英語をはじめとする、母語以外の外国語を使って、ある程度コミュニケーションを図ることができる。	英語をはじめとする、母語以外の外国語を使ったコミュニケーションを図ることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	グローバル化が叫ばれている現在，海外の教育機関への語学留学，短期・長期の海外研修，国際交流プログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに，国際的な視野の涵養，異文化に対する意識の向上，学習への意欲を高めることを目的とする。
授業の進め方・方法	本校が実施する国際交流プログラムの他，他機関主催の海外派遣プログラムなどにおいて，研修先で用意された研修内容を体験することになる。 なお，研修先においては各自が目標を設定し，積極的な態度で臨む必要がある。
注意点	関連科目 　これまでの英語の学習内容だけでなく，歴史や文化に関する幅広い知識が求められる。 学習指針 　研修先の参加者と積極的に交流し，工学・技術の分野だけでなく，文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。

学修単位の履修上の注意

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1．実施時期 　夏季休業期間中もしくは学校に認められた期間 2．実施期間 　5 日間以上および合計30 時間以上 3．研修内容 　研修先のプログラムによる （研修先の文化に触れ，日本語以外の言語による交流がなされること） 4．研修先 　学校が認めた研修先（国外） 5．スケジュール 　事前に「単位認定申請・認定書」（所定の様式）を学生課教務係で受け取る。 研修終了後，速やかに 「研修等終了報告書」（様式任意） 「プログラム・要項」等，研修内容等が記された書類 「プログラム修了証書」 を提出する。 研修報告会（10月頃予定）において研修成果を発表する。	・異文化に対する理解を深めるとともに，他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め，自国の文化についても紹介ができる ・英語をはじめとする，母語以外の外国語を使って，一定のコミュニケーションを図ることができる
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	報告書	報告会での発表	合計
総合評価割合	75	25	100
基礎的能力	75	25	100

奈良工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	グローバルチャレンジ

科目基礎情報

科目番号	0009	科目区分	一般 / 選択
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	グローバル工学協働教育プログラム (GECEP)（ベーシックコース）	対象学年	1
開設期	集中	週時間数	
教科書/教材	なし		
担当教員	板倉 和裕		

到達目標

1. 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で述べることができる。
2. 諸外国の歴史や文化、現代世界の社会的課題について幅広い関心を有している。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
グローバルコミュニケーションカ	異文化への深い理解をもつとともに、積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができる。	積極的に海外学生との交流を図ることができない。
異文化理解力	異文化理解に対する高い意識をもつとともに、自国の文化へも目を向け、その違いを認知することができる。	異文化理解に対して高い意識をもっている。	異文化理解に対する意識が不十分である。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	グローバル教育センターが主催するイベント（特別講演会、国際交流報告会、異文化理解セミナーなど）に参加し、英語での講演聴講を通じて、諸外国の文化や現代世界の社会的諸課題について学び、グローバルエンジニアに必要な教養を身につける。
授業の進め方・方法	グローバル教育センター主催イベントへの参加と毎回のコメントカード作成。
注意点	関連科目：これまでの英語の学習内容だけでなく、諸外国の歴史と文化や現代世界の社会的諸課題について幅広い関心を持つことが求められる。 学習指針：専門分野の知識と合わせて、諸外国の文化や社会的課題について学ぶ積極的な姿勢が求められる。

学修単位の履修上の注意

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	イベントの開催情報については学生課グローバル掲示板およびグローバル教育センターHPに随時掲載されるので、履修学生は定期的に掲示板とHPを確認すること。 単位認定に関して グローバル教育センター主催イベントへの参加とコメントカードの提出、および報告書の提出をもって単位認定を行う。	1. 英語による講演内容を概ね理解し、自身の考えや質問を英語で述べることができる。 2. 諸外国の歴史や文化、現代世界の社会的課題について幅広い関心を有している。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		

		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合

	授業取り組み	報告書	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100